

問1 モンゴル（元）の襲来を退けたにもかかわらず、その後の鎌倉幕府の支配が急速に揺らぐ原因となった背景として、正しい説明はどれですか。（2017年 群馬県公立入試 類似）

1. 防衛に成功したものの、恩賞として与える土地が不足していたため、戦費で困窮した武士の不満が高まった。
2. 襲来をきっかけに朝廷が政治の実権を取り戻し、幕府を倒すための兵を挙げたため。
3. モンゴル軍との戦いを通じて、武士たちが幕府よりも天皇を重視する考えを持つようになったため。
4. 幕府が防衛のために重い税を全国の農民に課したことで、大規模な一揆が各地で頻発したため。

問2 源頼朝が、対立した実の弟を捕らえることを名目として、国ごとに守護、荘園や公領ごとに地頭を設置することを朝廷に認めさせた際、その捕縛の対象となった人物と、軍事や御家人の統制を担うために設置された組織の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2021年 熊本県公立入試 類似）

1. 源義経と侍所
2. 源義経と政所
3. 源義仲と侍所
4. 源義仲と問注所

問3 承久の乱の戦後処理において、鎌倉幕府が西日本への統制を強めるために、没収した土地へ派遣した「東日本の武士」に与えられた役職として正しいものはどれですか。（2018年 岡山公立入試 類似）

1. 地頭
2. 守護
3. 六波羅探題
4. 評定衆

問4 鎌倉時代末期、貨幣経済の浸透や元寇による負担で生活が困窮した御家人の幕府に対する不満が高まる中、新興の武士たちを味方につけて鎌倉幕府を倒した天皇と、その人物が開始した天皇中心の新しい政治の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2025年 東京都公立入試 類似）

1. 後醍醐天皇 — 建武の新政
2. 後白河天皇 — 院政
3. 聖武天皇 — 鎮護国家の政治
4. 桓武天皇 — 平安京への遷都

問5 「蒙古襲来絵詞」という絵巻物には、武士の竹崎季長が元軍を相手に奮戦する様子や、恩賞を求めて幕府に直訴する場面が描かれています。元寇を境に、御家人の生活が困窮し、社会が不安定化した背景を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2022年 島根公立入試 類似）

1. 戦費の自己負担に加え、当時の分割相続の慣習によって一人あたりの所領が細分化し、経済基盤が弱まっていたため
2. 幕府が御家人に対して農業を禁止し、元軍との継続的な戦いに備えて軍事訓練のみに専念するよう命じたため
3. 元軍による長期間の占領の結果、博多を中心とする九州の主要な農地がすべて元の直轄領として奪われたため
4. 幕府が貨幣経済を否定して物々交換を強制したため、武士が戦費を調達するために領地を安値で売却したため

問6 分割相続などの影響で生活が苦しくなった御家人を救済するため、1297年に鎌倉幕府が出した「永仁の徳政令」の内容として正しいものを選びなさい。（2017年 香川公立入試 類似）

1. 御家人が借金の担保として質に入れたり、売却したりした所領を、無償で取り戻させる。
2. これ以降の分割相続を一切禁止し、すべての所領を幕府が管理して御家人に給与を支払う。
3. 蒙古襲来の戦功に応じた十分な恩賞を与えるため、西国の公家から土地を取り上げて配分する。
4. 御家人の借金を帳消しにする代わりに、今後一切の貨幣の使用や商業活動を禁止する。

問7 鎌倉文化において、親鸞が浄土真宗の教義の中で示した、「善人ですら往生できるのだから、自らの罪を自覚している悪人（庶民）こそが阿弥陀如来の救いの本質である」という考え方を何と呼ぶかを選びなさい。（2016年 茨城県公立入試 類似）

1. 専修念仏
2. 悪人正機
3. 只管打坐
4. 神仏習合

問8 鎌倉幕府において、源氏の将軍が途絶えた後に北条氏が世襲し、将軍の補佐役として幕府の政務を統括した最高職を何といいますか。（2017年 鹿児島県公立入試 類似）

1. 執権
2. 管領
3. 老中
4. 評定衆

問9 鎌倉時代の文化において、「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり...」という一節で知られる軍記物語があります。この物語が、文字を読めない庶民の間にも広く普及した理由として、最も適切な説明を選びなさい。（2020年 千葉県公立入試 類似）

1. 琵琶を弾きながら語り歩く琵琶法師によって、各地で語り伝えられたため
2. 朝廷が公式な歴史書として認め、各地の役所に書き写させたため
3. 活版印刷の技術が普及し、安価な本として大量に出版されたため
4. 寺子屋で読み書きの教科書として広く採用されたため

答え合わせ・解説

問1	答え 1 防衛に成功したものの、恩賞として与える土地が不足していたため、戦費で困窮した武士の不満が高まった。	当時の武士にとっての恩賞は、主に敵から奪った土地を分配することでした。しかし、元寇は外国からの侵略を退ける防衛戦だったため、新たに分け与える土地がありませんでした。多額の軍費を自己負担して戦った御家人たちは、十分な報いを受けられなかったことで生活が困窮し、幕府への不信感を強めていきました。
問2	答え 1 源義経と侍所	源頼朝は、平氏を滅ぼした後に自分と対立した弟の源義経を捕らえるという口実で、1185年に守護・地頭を設置する権利を朝廷に認めさせました。これにより、幕府の支配力が全国に及ぶことになりました。また、鎌倉には軍事や御家人の統制を司る「侍所」のほか、一般政務を扱う「政所（当初は公文所）」、訴訟や裁判を扱う「問注所」が設置され、幕府の統治機構が整えられました。
問3	答え 1 地頭	鎌倉幕府は承久の乱の後、没収した広大な土地の管理や年貢の徴収を行うため、多くの東日本の武士を「地頭」として西日本へ送り込みました。これにより、西日本の地域社会に幕府の勢力が深く入り込むことになりました。なお、京都の監視や朝廷との調整を担うために設置されたのは六波羅探題であり、土地に直接配置された役職とは区別が必要です。
問4	答え 1 後醍醐天皇 — 建武の新政	鎌倉時代末期、生活に困窮した武士（御家人）の幕府への不信感を利用し、倒幕を実現したのが後醍醐天皇です。1333年に幕府を滅ぼした後、天皇自らが政治の主導権を握る「建武の新政」を開始しました。しかし、この政治は公家（貴族）を極端に優遇する内容であったため、倒幕に協力した武士たちの不満を再び招く結果となりました。
問5	答え 1 戦費の自己負担に加え、当時の分割相続の慣習によって一人あたりの所領が細分化し、経済基盤が弱まっていたため	元寇以前から、武士の間では所領を子や親族に分けて継がせる「分割相続」が行われており、世代が進むにつれて個々の武士の領地は狭くなっていました。そこに元寇の軍役負担が重なり、さらに期待していた恩賞も得られなかったため、多くの御家人が借金を抱えて生活に困窮しました。幕府はこれに対し、御家人の売却した領地を無償で取り戻させる「永仁の徳政令」などを出しましたが、かえって経済を混乱させる結果となりました。
問6	答え 1 御家人が借金の担保として質に入れたり、売却したりした所領を、無償で取り戻させる。	幕府は困窮する御家人を救うため、売却したり質に入れたりした所領を無償で元の持ち主に返させる徳政令を出しました。しかし、これにより金銭の貸し借りができなくなるなど経済的な混乱を招き、かえって御家人の生活はさらに苦しくなり、幕府への不満が高まる原因となりました。
問7	答え 2 悪人正機	親鸞は、自らの煩惱を自覚している者こそが、阿弥陀如来の救いの第一の対象であると説きました。この思想は「悪人正機（あくにんしょうき）」と呼ばれ、厳しい現実の中で生きる当時の民衆に強い希望を与え、後に浄土真宗が日本最大規模の宗派へと成長する背景となりました。
問8	答え 1 執権	鎌倉幕府の創始者である源頼朝の死後、その妻の北条政子の実家である北条氏が政治の実権を握りました。北条氏は将軍に代わって政治を行うための役職としてこれを世襲し、承久の乱や元寇といった国難に際しても幕府の指揮を執りました。
問9	答え 1 琵琶を弾きながら語り歩く琵琶法師によって、各地で語り伝えられたため	鎌倉時代に成立した『平家物語』は、平氏の繁栄と没落をえがいた軍記物語です。この作品は、琵琶を弾きながら物語を語る「琵琶法師（びわほうし）」によって各地へ広められました。音声によるパフォーマンスとして親しまれたことで、当時の識字率に関わらず、多くの民衆がその内容を知ることができました。